

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷  
 広報委員  
 洲本市中川原中川原 28 番地 1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

昨年暮れ、中川原ふれあいセンターでコロナ感染が相次ぎ、ふくろうの郷ではクラスターが発生しました。今回は職員の間で拡大を食い止められましたが、職員は疲労困憊の極みです。さて、玄關の立派な門松。開所以来地域交流会の方々によるものです。今年も職員を大切にしつつ、聴こえない人たちと地域のニーズにこたえる姿勢を貫いていきたいです。



▲書・山田正江様

本年もよろしく  
 願います



▲門松作り：地域交流会の平野様・宇城様・沖田会長（左より）

昨年12月、淡路ふくろうの郷で発生した新型コロナウイルス感染は、ご入居者さま、ご家族さま、ショートステイご利用の皆さま、関係者の皆さまに多大なご心配とご不便をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。

卵の如く、災いを飛び越える年になることを願います。振り返って考えてみますと、私たちが生きている46億年の地球は、偶々の連続とされています。もしも隕石が衝突しなかったら、今も恐竜が謳歌していたかもしれません。もしもウクライナで核戦争が起こったら、私たちの生命は風前のともしびとなりません。平和でこそ福祉であり、防衛費を増やすことではなく平和を追求する努力こそが大切なのではないだろうか。皆さまが健康に過ごさることができる事を祈念いたします。

（淡路ふくろうの郷 施設長 狭間 孝）

新年に入り、感染は終息をいたしました。今後、これまで以上に感染対策に留意し、安心安全なサービス提供に務めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

令和5年は、「卯年」。卯は、穏やかで温厚なので「家内安全」。跳躍する姿から「飛躍」「向上」を象徴し、新しいことに挑戦することに最適な年だと言われています。

武漢から始まったパンデミックは、4年目を迎え、未だ終息の兆しは見えていませんが、

## 今年の漢字



# 健

**メリークリスマス!! (12月14日)**

各ユニットでクリスマス会を行いました。昼食はオムライス・エビフライ・クリームシチューでした。プレゼントは担当職員が入居者さんに喜んでもらえるものを考えて、お菓子・プリン・リースの3種類を準備しました。

入居者一人ひとりにお配りすると、とても喜ばれその笑顔にとっても温かい気持ちになりました。

（生活援助係 山本唯雄）

**ゆず風呂**を楽しむ

12/22

地域交流会の宇城守様より頂いた柚子を湯舟に浮かべて温まりました。

ゆずの香りをかいで、入浴を楽しみました。いつもご支援ありがとうございます。



# 互 礼 会



## 甘酒で乾杯

各ユニットで入居者のみなさんと一緒に甘酒で乾杯をして、新年のお祝いしました。今年の漢字について、「光」「晴」「一」「縁」「穩」「健」「再」「嬉」「平」「明」「安」の中からどれが良いかを尋ねたところ多数決で『健』が選ばれました。やはり入居者さんも健康第一、健やかな暮らしを求められていることを痛感しました。

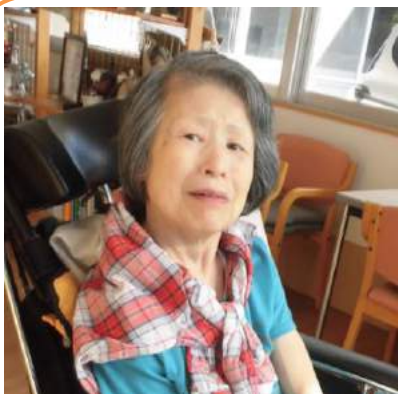
ふくろうの郷では感染予防に努めながら自治会役員をはじめ、入居者一人ひとりの声に耳を傾けながら、今後もくらしの充実に向けて職員と一緒に考え、取り組んでいきたいと考えております。

年の始まりを笑顔で迎えることができました。本年もどうぞよろしくお願ひします。

副施設長 加野明宏  
(淡路ふくろうの郷)



# 卯年 年男年女



森 三智子 様 (昭和 26 年 6 月 17 日生まれ)

- ・一度決めたことは曲げない性格だけど気さくに付き合えるタイプです！
- ・パッチワークや編み物が得意です！
- ・甘いものが大好物です～♪
- ・娘様家族がふくろうの郷に会いに来てくれるのを心待ちにしています。

## 職員抱負

大増税・大軍拡 NO！

戦争はいや！平和こそ！！

高田富美枝

年々体力が衰えているので

体力維持に努めたい

國久洋志

ウサギのように、険しい道や上り坂を

難なく飛び越える力で、

資格取得に向け挑戦！！

鈴川晃司

子どもと一緒に子どもよりも

遊びを全力で楽しむ

そういう父に私はなりたい

川満和則

ご期待にお応えできるよう  
職員一同努力してまいります

# ふくろう物語 森三智子様

昭和26年6月17日兵庫県たつの市生まれの71歳。ご本人はろう者で健聴の兄と妹の3人兄弟です。

ご本人様から話を聞くことが難しいため、娘様から伺いました。

地元の幼稚園に通った後、姫路ろう学校小学部に入學し、親元を離れ寄宿舎生活をしていました。その後、高等部からは自宅から通学されました。



▲娘様ご家族の来訪に笑みがこぼれる三智子さん

卒業後は大阪の織維会社に就職され裁縫の仕事をしていました。その後退職し、姫路市内で生活して

いました。板金の仕事をしていたご主人(難聴)と結婚・出産・子育てをされ、手先が器用だったので洋服や鞆を作ったり、パッチワークや編み物も得意でした。

## 娘・孫のために

娘様とは手話で会話され、寄宿舎生活を振り返り、「お父さんやお母さんと離れて暮らすのは寂しかった。」とよく話されていました。

また、45歳の時に運転免許を取ると宣言され教習所に通い、苦勞したが諦めずに通い、無事運転免許を取得しました。日常的に運転をされ、ドライブも楽しまれ、66歳頃まで無事故で運転をしていました。

17年前にご主人が他界、娘と二人暮らしとなりました。その後、家庭を持たれた娘様が同じ敷地内で生活するよ



▲30年程前母娘写真

うになり孫の面倒も見られていました。孫が1、2歳の頃は毎日、目が離せずつきつきりでお世話をされていたそうです。一方、得意の裁縫で洋服や小物等を色々で作ってあげていました。孫の姿を見るたびに笑顔で接していました。

## 自慢のお母さん

娘様からは、『耳が聞こえないことで娘に不憫な思いをさせてはいけなさと、人一倍努力していたのを傍で見えてきました。そしてなによりも自分をここまで育て上げてくれた母の凄さに自分も親となりとても尊敬し

ています。』とお気持ちを述べられています。

す。娘様ご家族がふくろうの郷へ足を運んでくださった際にも、同様の笑顔で迎えられています。

ふくろうの暮らして 2年前から病気のため、介護保険サービスを利用して生活されていきました。しかし病気の進行によって自宅での生活が難しくなってきたため、令和4年5月14日にふくろうの郷へ入居されました。

ふと垣間見せる三智子さんの笑顔に心が癒されま

います。

(生活援助係 石黒裕規)



訃報 山崎榮子様 2022年12月21日永眠されました。18歳の時、爆心地から約6\*離れた疎開先で被爆。2003年には長崎市の平和記念式典で被爆者代表を務め、手話で「平和への誓い」を行いました。

お孫さんからは、「おばあちゃんと私は住む世界が違った。私たちの知らないおばあちゃんのことを知ってくれてありがとうございます」との言葉をいただきました。

## 1月・2月 ふくろうの暮らし

- 1/17(火) ふくろう大学絵手紙講座
- 1/18(水) ふくろう喫茶
- 1/20(金) 回想法
- 1/21(土) ふくろう大学書道講座
- 1/27(金) ふくろう大学料理講座
- 2/ 1(水) 誕生会
- 2/ 2(木) 節分・豆まき
- 2/ 6(月) ふくろう理髪店
- 2/ 7(火) ふくろう大学演劇講座
- 2/ 8(水) 手話講座

## 普段の関わりから重層的な支援の広がりへ

### 第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 in 東京でレポート発表

**淡路聴覚障害者  
センター**  
便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

今回の集会はオンラインで開催され、第3分科会「地域生活を支える」で当センターと相談支援事業所と共同でレポート報告を行いました。

Aさん(59歳・男性)とは平成15年頃にセンターに相談に来られ、障害年金や補聴器の申請の支援で関わりが始めました。父親が亡くなり独居生活をされるようになった。平成26年から、就労継続支援B型事業所に通所されることになり、相談支援事業所も個別支援計画を担当し関わりになりました。聴覚障害2級に加え今年に入って目の病気を発症し、視力低下で視覚障害2級との判定を受けました。入院手術の期間中「この先一人暮らしは困難だろう、施設入所が必要なのでは」と支援者が勝手にあれこれ考えて

ていました。しかし、Aさんはこれまで慣れ親しんだB型事業所への通所を続けながら、住み慣れた家・地域で暮らすことを望まれました。

■入院を機に重層的な支援へ

今回、入院支援をきっかけに家での生活状況、地域、親戚など彼を取り巻く生活環境が把握でき、支援者との信頼関係も築け、退院後の支援について地域民生委員や駐在所、隣保や町内会、また、遠方の親戚とも連携がとれるようになりました。

他の参加者からは、「同じ支援をしていく立場ですが、なかなか地域の方と繋がれていない、ぜひ参考にしたい」との感想もいただきました。

今後、年齢を重ねるにつれ障害も重くなります。どこまでお一人の生活を支えられるか、公的なサービスや、地域の人たちなど公私の資源を活用しつつAさんの「地域で暮らし、仲間と一緒に働きたい」という想いに応えられるよう、支援を続けたいと思っています。(楠本恵利子)

### 第5回社会生活教室 「今さら聞けないスマホの話」



たつの市消費生活センター相談員後藤真由美氏にスマホを利用する時の注意点についてお話いただきました。

スマホは、インターネットにアクセスでき、簡単に世界中の情報が得られる半面、アプリをダウンロードし利用すると、入力した個人情報がアプリの管理者に情報が筒抜けになっていることや、また、SMS(ショートメッセージ)を何気なくクリックしたら、40万円請求された例もあるなど、届いたメールを慎重に判断し、操作する必要があると、注意が必要であることについて話がありました。

12月4日開催、17名の参加者がありました。センターろう相談員の吉川稔から福祉制度について説明しました。

その後、兵庫盲ろう者友の会理事をされている奥井大氏から「盲ろう者とは？」のテーマでのお話と盲ろう通訳の体験をしていただきました。

奥井氏は聴覚障害者として様々な困難を経験され、その上40歳過ぎから徐々に視力を失っていくという計り知れない苦しさを抱えながらも、仕事の傍ら、若い時はろうあ協会、視力の低下が著しくなってきたからは盲ろう者友の会の活動

### 手話奉仕員養成講座集中講座「盲ろう者とは？」

動を積極的にされてきました。

受講者の中には盲ろう者がいることを知らなかった方もいましたが、奥井氏の話や、触手話を体験しコミュニケーション方法を分かっていただけだと思えます。「重複障害を想像できなかった!」「体験して伝えることの難しさが分かりました!」「奥井さんの前向きな姿勢に感動しもっと勉強したい。」などの感想がありました。

(岡本久子)



▲奥井氏と触手話体験をする受講者

# 新春おめでとうございます 今年もどうぞよろしくお願いたします



**盲ろう者支援とは、**  
おのころの家には、盲ろうの利用者がおられます。利用される前に手すりの位置や点字ブロックなど施設内の設置を確認しました。実際に利用が始まり、移動の際は職員が必ず案内をしていましたが、ご本人の「もう大丈夫かなあ」「ここが・・・」など案内中に眩きが聞こえ、自分で行くにはどうしたらよいかと職員は考え、歩くときにどこの何を

感じているのかなどご本人の様子を感じ取りながら環境を整えてきました。そして今ではおひとりトイレに行きます。直接支援することだけでなく、一人で行けるには？を考えていきたいと思えます。又、「おはよう」「さようなら」の合図を決めて、職員と挨拶するコミュニケーション方法等を共有し今後の支援に取り組みたいです。  
(おのころの家職員 興津)



中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



## 全聴福研(オンライン)に参加して



第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加し、他施設の方や支援学校、研究者の先生方の貴重な意見が聞け、いろいろと考える時間になったと思えました。特に共感した内容は、手や口から出てくる言葉だけでなく、相手が伝えきれていないが本当に伝えたい事を汲み取っていく必要があるというところでした。相手の伝えたい言葉の意味を自分一人で考えるのではなく、職場のスタッフと一緒に本当に伝えたい事は何かを話し合う機会を作っていく事が大事という内容でした。

今後は自分一人で判断せず、みんなで相手の本当に伝えたい事が何かを考えていきたいと思えます。  
(おのころの家職員 矢田)

12月に入り、いつもご注文を下さるお客様、各サークルを始め様々な団体様(ろうあ協会・洲本市役所など)より、クリスマス会用のクッキー・焼菓子の詰め合わせのセットをご注文いただきました。

毎日忙しい日が続きましたが、利用者さんを中心に様々な焼菓子を製造し、期日に合わせ順調にお届けすることができました。

袋のデザインも一新し、リボン・パッケージにもクリスマスらしく工夫を凝らし、お客様より「子どもたちも『かわいい!』と喜んでいたよ。」と好評を得ました。

今後もお客様のニーズに合わせて、利用者さんと共に頑張っていきたいと思えます。

ご注文をお待ちしています。



(おのころ屋職員 山田)

# 神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1

〒653-0836  
電話：078 798 7940  
FAX：078 798 7941

## 新しい友達ができたよ！ ふくろうっこクリスマス会

12月23日(金)はどの学校でも終業式でした。異なる学校の子どもたちが参加しやすいように、その日の午後からクリスマス会を実施しました。ふくろうっこで過ごす2回目のクリスマスですが、子どもたちからは到着してからのわくわくが伝わってきました。

今回14名の子どもが参加し、「真つ赤なお鼻のトナカイ」を手話で歌ったり、ゲームや庄崎隆志氏による皿回し大会、ケーキタイムなど、たくさん楽しんでくれていました！学校へのお迎えではろう運動手さんがサンタさんとトナカイさんに変装し、校長先生や先



生方からも大好評だったようです。

ゲーム大会では手話にこだわらず、お互いの交流がしやすい内容を考えました。ジュエスチャーゲームや記憶力お絵かき、シツティングバレー、体内時計ゲームです。子どもたちがそれぞれの得意なことを発揮できたゲームでした。庄崎さんの十八番である皿回しでは歓声があがり、「自分ではできる！見て！」「いや、僕の方が上手だよ！」と言う子どもがいました。

言語／非言語コミュニケーションをどう使い分け、どう組み合わせれば他者に自分の意思や思いを伝えることができるのか、多様な立場の人たちにどう対応すればいいのかなど、放デイではさまざまなパターンのコミュニケーション方法を学んだり、自己肯定感を高める好機な場所だと改めて感じています。

(放課後等デイサービス 山本美由美)

## B型・生活介護 合同クリスマス会

12月12日(月)、ちよつと早いクリスマス会を開催しました。

今年のごちそうは、ちらし寿司とオードブル。ちらし寿司はなかまと一緒に作りました。プラカップに入れてかわいくデコレーションしました。お菓子は社協さんからいただきました。



▲みんなで作ったちらし寿司

乾杯のあと歓談しながらの食事タイムでしたが、あつという間に食べ終わってしまい・予定の時間を早めて、ゲームを始めました。

なかなか伝わらなかった「伝言ゲーム」。お題に沿った絵を

グループ全員で描き上げる「お絵描きゲーム」。利用者はとても楽しんでいました。



その後、いつもお仕事を依頼して下さる段ボール会社の社長さんからいただいたケーキを食べました。職員からも、ささやかではありませんがプレゼントを渡し、みんなが喜んでくれる様子を見て嬉しく思いました。最後にビンゴゲームで盛り上がり、お開きとなりました。

恒例行事のクリスマス会。今年も笑顔をたくさん見ることができ、一年の締めくくりにふさわしい時間になりました。

(B型作業所支援員 南山邦子)



▲ケーキの差し入れ  
ありがとうございます